



# 最期をともに…お看取りケア



訪問介護には出会いと別れがつきもの。中には「お看取りケア」として、最期の数週間にお付き合いすることもあります。今回は、末期ガンのT様をお送りしたケアをご紹介します。

「家に帰りたい」というT様の希望を叶えたい…そんなご依頼を受けてから4日後、グレースケアの訪問が始まりました。1日3回のケアを6名のヘルパーで協力しながら、1週間ほどの関わりとなりました。

介護経験のないご家族様でしたが、できる限りのことを懸命にされていました。ある日、訪問すると娘様からすぐに相談があり、震える手で書き留められていたメモを読んでくださいました。きっと不安でしかたなかったのでしょう。「大丈夫ですよ」とヘルパーが娘様の手を握ると少し落ち着いたご様子に。ご家族にも安心していただけるよう、ヘルパーもサポートしつつ一緒にお身体を拭いたり、お着替えをしたりしながら、お別れに向けての時間を過ごされました。



時には思い出話に花が咲くことも。T様は園芸や音楽がお好きなのだそうで、演歌を聴いていたという話を受けて美空ひばりの曲を流していると、息子様が「そういえば加山雄三を聴いていたかも」と。娘様も「母は加山雄三のショーを1人で見に行ったりしてました。ねえ～お母さん」と声をかけて、懐かしの音楽に包まれながらのケアになりました。

最期にご家族が集まり、T様へ「ありがとう」「心配かけてごめんね」と感謝の言葉を伝えられました。あたたかく見守られる中での旅立ち。ご葬儀では20年前に自ら準備したという遺影が飾られ、米寿や卒寿のお写真を見ながらT様との思い出を語り合ったそうです。

急なお看取りへの不安を和らげ、ご本人・ご家族とともに「安心して送り出せる場をつくる」こともヘルパーの大事な役割だと感じられました。T様の思い出に触れながら、人生の幕が下りていく瞬間に立ち会える貴重な経験となりました。

## ヘルパー紹介 テニス好きのナイスミドル！

小谷 道英 (こたに みちひで)

横浜市出身、63才です。長年建築業界に従事していましたが退職後、多摩職業能力開発センターの生活支援サービス課を修了し、7月から働いています。

現在は主に、送迎ドライバー・家事支援・移動支援などのお仕事をしています。

新米の私に丁寧に優しく指導してもらい、技術の上達は遅いなが

らも支援や介助の仕事は大いにやりがいを感じている毎日です。コミュニケーションを大切にこれから頑張っていこうと思っています。

休みの日は主にソフトテニス・山登りを、空いた時間ではボウリング・ウクレレ弾き語りなどを行っています。よろしくお願ひします。



## ヘルパーの「専門性」研究 家事のケアは誰でもできる？



9月17日、日本認知科学会の分科会にて、グレースケアの利用者Y様とヘルパー3名が協力した研究の報告がありました。細馬宏通教授（早稲田大）は、グループホーム介護職の神対応を分析した著作で知られ（『介護するからだ』）、その指導のもと八木裕子助教授（東洋大）が今回初めて在宅で取り組んだもの。ケア場面の映像を元にヘルパーがどのように利用者へはたらきかけているのかを分析しました。

共に料理を行う場面では、ヘルパーが人さし指を立てて利用者に話しかけ、利用者の注意を指に向けたところで鍋を指さし、注意を鍋へ移してもらいます。この一連の流れは、両者が同じものへ注意を向ける『共同注意』という専門用語で解説されています。

続いてヘルパーは「卵を割ってかき混ぜる」という動作を「カチャカチャ」という言葉（『オノマトペ』）で利用者へ伝えます。このとき、利用者に「鍋をコンコンと叩くクセ」があると気が付いたヘルパーは、リズムカルな言葉を交えて説明すると伝わりやすいのではと考えたのだそう。「利用者一人一人の生活に合わせたケアをデザインする」という、ヘルパーの工夫が見えてきます。

会場の参加者からは「研究者が勝手に『共同注意』という概念を当てはめてしまうと、ヘルパーと利用者との間の『まだ言葉になっていない事象』を見落としてしまうのでは？」など多くの質問が寄せられ、関心を持って受け止められていました。

ヘルパーの「専門性」を明らかにしようという取り組み、今回は5時間撮影してたった6秒を分析したもの。無意識に行っているケアの中身が客観的には多様なスキルに裏打ちされている発見は新鮮でした。今後の研究にも期待が高まります！



▲ヘルパー、早稲田大学院生の皆さんとの事前セッション

発表原稿はこちら「第23回研究会のお知らせ」▶  
『訪問介護場面におけるヘルパーの間合いについて』



## ハラスメントNO!! 研修報告

グレースケアでは毎月、全ヘルパー・スタッフが参加できる研修会を実施しています。

7月の研修では、外部講師として伊藤亜記さんをお迎えし『メンタルヘルスの為のカスタマーハラスメント対策』と題し、カスハラの内容や対策などについて学びました。社内のハラスメント対策チームからは「ハラスメント0(ゼロ)宣言」を説明しました。

8月は「緊急時対応について～誤嚥性肺炎・脳卒中・熱中症～」というテーマで、事例をもとに意見を出し合いました。ひとまちここ訪問看護の寺嶋Ns.からの解説も交え、日常をよく知る介護職が「普段」から心がけること、異変に気づくポイントなどを学び、落ち着いて速やかに対応することを改めて共有できました。

